

【八重瀬町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代で先行きが不透明な時代を生き抜くためには、生涯にわたって学び続ける「生きる力」が求められている。また、現代社会におけるデジタル化、オンライン化が大きく進展しているなか、これからの学校は、ICTを最大限活用することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが求められている。

本町では、これまで取り組んできた「個別最適な学び」と「協働的な学び」をより推し進めることで「生涯にわたって自ら学びを進めていくことができる児童生徒の育成」をめざしている。

個別最適な学びでは、児童生徒のペース、方法、理解度、興味関心も少しずつ異なり、児童生徒を誰ひとり取り残さない納得するやり方で進めていく。

また一人で学ぶには時間的な制約があり、協働的な学びが必要となり、まわりとの対話やクラウド上でみんなの考えを参照し、感化されるといったことが想定される。

本町では、これまで以上に1人1台端末やクラウド環境下での個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、児童生徒が主体的に学び、児童生徒が対話的に学ぶ、児童生徒の資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

2. GIGA第1期の総括

コロナ禍において、休校時の中オンライン授業への取り組みや持ち帰りを通して、端末の利活用が一定程度進むこととなった。また、Google WorkspaceなどクラウドツールやClassroom、ドライブを利用した校内での資料の共有や情報共有する仕組みも一定程度定着したほか、他校との交流事業におけるMeetやZoomといったビデオ会議ツールの利活用も広がっている。

また、Formsを通じた欠席連絡やアンケート集計といった利活用も定着しており、コロナ禍の経験を活かした実践が広がっている。

一方で、学校間の利活用の差や学年間での利活用の差、学級間でも利活用の差が出てきている。学習の基盤として「情報活用能力の育成」には、1人1台端末を活用した実践が不可欠であることを理解したうえで、校内でのミニ研修等の充実や校務や研修での利活用を十分に体験し、授業等で実践が広がっていくことが必要とされている。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末整備・更新に向けて、教師の校務や研修での利活用を促進し、クラウド活用の体験を十分に満たし、授業や授業外での活用にも幅を広げていく。

新しい授業観に向けても、国・県の動向を踏まえて、理論的な研修の充実を図り、端末利活用が目的ではなく、児童生徒の「学びを豊か」にするための利活用に向けて理解を深めていく。

県内の先進地域（リーディングDXスクール指定校）の授業視察や県外の先進地域等の視察も行い、先進地域の取組から学び、自治体の実践に活かしていく。

また、沖縄県教育庁県立学校教育課教育DX推進室と連携し、研修支援や授業改善に努め、文部科学省学校DX戦略アドバイザーや文部科学省GIGA StuDX推進チームも利用し、研修支援や授業支援を計画し利活用を促進していく。